

令和6年度 学校評価総括表（大俣小学校）

1 学校教育目標 人間尊重の精神を基盤にし、一人一人に応じた生きる力の育成を図り、ふるさとを愛する心身ともにたくましい子どもを育てる。

2 重点目標 (1) 「気づき・考え・行動し、話し・伝える」児童の育成 (2) 「個別最適で協働的な学びの充実」に向けての授業改善 (3) 「地域の学校」として信頼される学校づくり (4) 教職員の協働した教育活動の推進

3 総括表 評価規準 A:よくできている B:できている C:努力がいる D:大変努力がいる

領域	評価項目		自己評価			次年度への改善点等	学校関係者評価		
			考察〈成果と課題〉	※ (pt) は、昨年度との比較	評価				
学校経営	経営方針	学校経営方針の周知	「学校は、学校教育目標に向かって努力している」という設問に対して98.6 % (+8.0pt) の保護者が肯定的に回答している。学校経営方針を校長室と職員室に掲示するとともに、学校ホームページにも掲載している。よりよい学校経営のために、保護者と地域への周知を継続が必要である。		A	教職員、保護者、地域の共通理解を徹底し、周知するだけでなく、共に学校を運営できる体制を構築する。	A	A	
	開かれた学校	保護者・地域への情報発信・連携	「学校での様子や教育活動などを、懇談や学級だより、ホームページなどによって知ることができる」と回答した保護者は94.2% (+5.0pt) である。ホームページを110回以上更新したり、全学級担任が学級経営方針や学級の様子を保護者に伝えたりすることができた。また、メール配信等により、迅速に情報を発信することができた。		A		引き続き、学校の様子や教育活動などを、こまめに保護者や地域に発信していく。		B
	学級経営	一人一人を大切にす学級経営の実践	児童の91.8%が「学校が楽しい」と答えているが、「楽しくない」と答えている児童もいる。「子どもたちは楽しく学校に登校している」と肯定的に答えた保護者は97.1% (+6.6pt) であった。教職員は「楽しい学級・学校・授業づくり」に努めているが、「十分ではなかった」と回答している者もいる。学級担任自ら学級経営を振り返り、全ての児童が楽しい学級にするための方策を考える必要がある。		A		「学校が楽しい」児童が100%となるように、担任だけでなく多くの教職員が関わる学級・学校づくりを目指す。		A
	教職員の資質向上	授業力・組織力の向上	96.4% (+5.8pt) の児童が「授業はよく分かる」と回答している。教職員は、学校全体で共通理解した授業規律の指導や、一人一台端末を活用しての個に応じた指導に努めている。今年度も、教員の「授業力向上WEEK」を実施したが、2学期からは「授業力向上月間」とし、互いの授業を見せ合った。また、若手教員を中心にメンター研修を行い、授業力向上を目指した。「主体的で対話的な学び」に向けて、授業改善にも取り組むことができた。組織力については、全教職員が「校務分掌は適切で、協働できている」と回答している。日常の対話を大切にしてきた成果であると考えられる。		A		研究授業だけでなく、互いの授業を見せ合う「授業力向上月間」を充実させることで、授業改善を推進し、個々の授業力とチームとしての組織力を更に向上させる。		A
	環境整備	安全で美しい環境の整備	毎月の学校安全の日に安全点検を行い、危険箇所や修繕箇所については、迅速に対応した。清掃時間には、児童と教職員がともに活動することができた。秋の愛校奉仕作業には、全家庭から1~2名の参加があり、環境整備に努めてくださった。校庭や運動場の樹木を剪定・伐採していただいたおかげで、児童が安全で美しい環境で学習できた。		A		教職員と児童だけでなく、保護者や地域の方々とともに、引き続き、安全で美しい学校になるよう努める。		A
	業務改善	働き方改革の推進	学校の働き方改革推進の必要性について、保護者の91.3% (+8.9pt) が理解し、協力してくださっている。教職員は「校務分掌の適切さ」についての設問に全員が肯定的な回答であった。アプリによる欠席連絡や教員業務支援員への業務依頼等により、業務改善を進めてきた。全教職員がやりがいをもって働いているが、若手教員が初めて行う校務については、準備等に時間がかかるので、更なる改善が必要である。		B		ICTの活用、紙媒体の削減等、業務並びに教育活動に進取の気性で取り組んでいく。		B
教育活動	学力向上	基礎基本の充実 学習意欲	授業中に集中して話を聞くことができている児童は96.5% (+14.1pt)、自分の考えを発言している児童は84.7% (+11.8pt) となった。また、保護者は「学校は、子供の実態を踏まえ、学力向上を目指して指導している」に91.3% (+6.2pt) が肯定的な回答であった。家庭では「学習する習慣が身に付くような働きかけをしている」に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した保護者は75.4% (+5.1pt) であった。学校と保護者が協働して児童の学習意欲を高め、学力向上に取り組めるようになってきている。		A	一人一台端末や思考ツールを活用して、児童が主体的・協働的な学習に取り組めるようにする。家庭学習にも主体的に取り組める工夫改善をする。	A	A	
	心の教育 (人権教育)	人権尊重の精神の育成 いじめ防止	保護者の95.7% (+5.1pt) は「学校は、子供たちに生命を大切にす心や人権を尊重する意識や態度を育てようとしている」と答えている。「自分はいじめや差別のない学校や学級にしようとしている」と答えた児童は89.4% (+1.2pt) である。また、「自分には、よいところがある」と回答した児童は83.5% (同一項目なし) であるが、「わからない」と答えた児童もおり、保護者と連携をとりながら自分のよさを自覚できるように関わる必要がある。		A	いじめ防止子供委員会の活動の活性化と教職員の人権教育についての研修の深化を進め、いじめを許さない学校づくりに努める。	A		
	生徒指導	望ましい生活習慣の育成	「お子様は、家庭でルールやマナーを守り、規則正しい生活を送っている」と回答した保護者は79.7% (+2.7pt) である。「ゲームや動画視聴、インターネットの時間を決めてしている」と答えた児童は74.1% (-1.2pt) であり、メディアを使うときのルールを作り守ることができていない児童が多い。学校では、PBS (ポジティブ行動支援) を推進し、基本的生活習慣を定着させる指導を続けてきた教職員が87.5% (+8.6pt) である。教職員のPBSに対する意識を高め、児童の望ましい生活習慣育成につなげていきたい。		B	自分で目標を決め、実行する「メディア-1.0」に継続して取り組む。また、情報モラル教育等の研修の充実を図り、学校と家庭が協働できるように努める。	A		
	健康・体力づくり	基本的生活習慣の確立 運動習慣の定着	「朝食を食べている」児童は95.3% (+1.2pt) で、保護者の数値とほぼ一致している。長期休業日中も、平均的には「早寝早起き朝ごはん」の生活習慣を保持できている。また、保護者の95.7% (+1.1pt) は「学校は、外遊びや体育の授業を通して、体力向上を目指して指導している」と回答している。「元気に遊んだり運動をしたりしている」と答えた児童は90.6% (+1.2pt) であり、「体力向上を図る指導をしている」と肯定的な回答をした教職員は81.3% (+2.3pt) である。業間休み (30分) 昼休み (25分) を有効に使えるように、教職員の声かけも必要である。		A	望ましい生活習慣についての情報を発信する。異年齢集団班の活動や体育の時間に運動量を確保したり、外遊びや徒歩での通学を奨励したりする。	B		
	家庭・地域教育	家庭・地域教育力の向上	保護者の学校行事への参加並びに担任との連携は91.3% (-1.9pt)。「学校は、地域や家庭と力を合わせて、子供の教育を進めている」という設問には94.2% (-0.4pt) の保護者が肯定的に回答している。昨年度に比べ、ポイントが下がっているが、今後も保護者並びに関係機関と連携しながら教育活動を進めていく。本校教育活動に理解、協力を惜しまず、体験活動も充実させてくださっている。		B	多くの保護者や地域の方々や課題を共有する場を設定し、協働して課題解決に取り組んでいく。	B		

◆学校運営協議会委員からのご意見

- ・学力向上、教職員との信頼関係など多くの項目で日頃の教育の成果が表れている。
- ・朝食しっかり食べている児童が多く、保護者の協力的な姿勢が見受けられる。
- ・朝食を食べ、毎日楽しく学校に通っている子供たちを見る保護者の温かい視線を感じられた。
- ・ほとんどの項目で評価が上がっている。先生方の日頃の努力に感謝する。